

全国協議会 ニュース

2019年4月1日発行 第322号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

ありがとう♡4万例到達！ 骨髄バンク・さい帯血バンクの移植合計数

3月12日（火）、日本骨髄バンクと公的さい帯血バンクを介した非血縁者間造血細胞移植の累計数が4万例（骨髄・末梢血幹細胞移植2万2,929例、さい帯血移植1万7,118例）に到達したと発表されました。

日本における同種造血幹細胞移植の状況は、最近では年間3,700例（血縁者間1,100例、骨髄バンク1,250例、さい帯血バンク1,350例）ほどが行われています。世界的にみてもアメリカに次いで第2位の移植例数であり、生存率は最も優れた成績をあげています。造血幹細胞移植医療は、今や白血病など血液難病患者の救命に欠かせない大きな役割を果たしています。

こうした成果は、骨髄・末梢血幹細胞やさい帯血を提供されたドナーの方々、4万人もの献身があってはじめて実現されたもので、改めてドナーの皆様に心から感謝を申し上げます。さらに医療関係者をはじめバンク事業者、行政機関などの方々のこれまでのご尽力に敬意を表します。

こうした成果は、骨髄・末梢血幹細胞やさい帯血を提供されたドナーの方々、4万人もの献身があってはじめて実現されたもので、改めてドナーの皆様に心から感謝を申し上げます。さらに医療関係者をはじめバンク事業者、行政機関などの方々のこれまでのご尽力に敬意を表します。

骨髄・さい帯血バンク移植合計数推移	
1993年	骨髄バンク移植開始
1997年	さい帯血バンク移植開始
2006年	移植1万例到達
2011年	移植2万例到達
2015年	移植3万例到達
2019年	移植4万例到達

ドナー登録者数 50万人突破！

本年2月の月間ドナー登録者数が1万1,662人となり、ドナー登録者現在数は50万人を一気に突破しました。通常月は2,800人ほどですので4倍以上となる急増でした。この理由は、水泳選手・池江璃花子さんが白血病発症を公表された後、連日のマスコミ報道によって、社会的にも白血病と骨髄移植・骨髄バンクへの関心が高まったことによります。これまで骨髄バンクのドナー募集・

時代になりました。私の知人は、慢性骨髄性白血病と診断を受けてから、分子標的治療薬の服薬を開始し、これまでと変わらない社会生活を送っております。しかし、治療には多くの不安が付きまとい、患者の経済的負担が極めて重い現実があります。当全国協議会では、全国各地で骨髄移植のドナー募集等を進めるほか、患者さんやその家族などへの正しい情報の提供、経済的支援などを行っています。こうした活動は、皆様の善意のご寄付により行われていますが、その財源は厳しい状況です。白血病患者などへの支援活動持続のために、皆様の暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。

クラウドファンディング開始！

「白血病患者への支援活動資金の確保」のため、目標1,000万円を掲げてReadyfor社のクラウドファンディングにチャレンジいたします。寄付金募集期間は4月4日～6月3日の2カ月間です。皆様のご支援とSNS（Facebook、Twitterなど）やWebサイトでの拡散を是非ともお願いします！ご寄付もお願いします。
<https://readyfor.jp/projects/marrow>



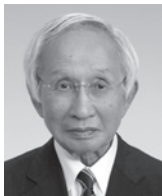
ホームページをリニューアル

4月から全国協議会のホームページをリニューアルしました。暗号化通信になり、スマートフォン対応になりました。是非ご覧ください。
<https://www.marow.or.jp/>

登録推進活動は、全国各地のボランティア団体・個人が日夜、頑張っており、ドナー登録者数50万人突破は、こうした努力の結晶であると皆様に心から感謝申し上げます。

今後とも、一過性のブームとならないよう関係者の努力が改めて求められていると思います。

皆様のご支援をお願いします



全国骨髄バンク
推進連絡協議会 顧問
岡村 正
(株式会社東芝 名誉顧問)

2月12日、競泳女子日本代表の池江璃花子さんが、「白血病」と診断を受けたことを明らかにしました。池江さんの病状公表にともない闘病を応援する声が広がっており、世代を問わず「白血病」に国民の注目が集まっています。

かつては「不治の病」とされた「白血病」ですが、骨髄移植や分子標的治療薬などの治療により社会復帰できる

時代になりました。私の知人は、慢性骨髄性白血病と診断を受けてから、分子標的治療薬の服薬を開始し、これまでと変わらない社会生活を送っております。

しかし、治療には多くの不安が付きまとい、患者の経済的負担が極めて重い現実があります。当全国協議会では、全国各地で骨髄移植のドナー募集等を進めるほか、患者さんやその家族などへの正しい情報の提供、経済的支援などを行っています。こうした活動は、皆様の善意のご寄付により行われていますが、その財源は厳しい状況です。白血病患者などへの支援活動持続のために、皆様の暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。

白血病患者などへの支援活動持続のために、皆様の暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

（MONTHLY JMDDP(3月15日発行)より抜粋）

■日本骨髄バンクの現状(2019年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,888	11,662	503,883	773,023
患者登録者数	239	207	2,121	55,957
移植例数	86	119	—	22,909

■2月の区別ドナー登録者数

献血ルーム／8,154人、献血併行型集団登録会／2,842人、集団登録会／50人、その他／616人

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,839人／20代 75,910人／30代 137,719人
40代 215,982人／50代 69,433人

■2月の20歳未満の登録者594人

■2月未だの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：666件

注)2018年11月から、海外患者については国内患者への対応に準じ、1年以上ドナーコーディネートを進めていない患者を取消しているため、患者登録現在数が前月比で735人減少しています。

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

解説 ドナー登録者数、本当は何人？

本年2月末の骨髄バンクのドナー登録者数は50万3,883人となりました。多くの市民・国民のご理解とご協力の賜物であり、本当に有難く大変嬉しく思っています。今回、ドナー登録者の年齢構成の状況、住所不明などによって実際の提供者になれない方が増加していることを解説いたします。

ドナー登録者年齢構成

骨髄バンクドナー登録者の年齢構成は、40歳以上が57%を占め、10歳代～20歳代は僅か16%、30歳代までを含めると43%になっています。また、ドナー登録者の平均年齢は、2006年当時では32歳だったのですが、現在は44歳となっています。ここ12年間で12歳も高齢化が進んでいます。この理由は、毎年のドナー登録者での10歳代～20歳代の若年層ドナー登録が少ないため、平均年齢が高齢化しているのです。

一方、2018年の年間新規ドナー登録者3万5,085人の状況で見ると、10歳代14%、20歳代29%、30歳代23%、40歳代27%、50歳代7%とかなり改善傾向を示しています。この理由は、全国各地のボランティア団体が、大学

ドナー登録者年齢構成		
10歳代	4,839人	(1%)
20歳代	75,910人	(15%)
30歳代	137,719人	(27%)
40歳代	215,982人	(43%)
50歳代	69,433人	(14%)
合計	503,883人	(100%)

など若者が多く集まる献血会場でのドナー登録呼びかけを積極的に行っていることが、功を奏した結果です。

住所不明者などの増加

2018年3月末現在、ドナー登録者数48万3,879人のうち11万3,021人(約23%)の方が保留ドナー登録者となっています。この保留ドナーの内訳では、住所不明8万1,494人、コーディネート結果2万6,885人、本人申告4,205人、その他437人です。

これらの保留ドナー登録者は、患者

との適合検索対象になっていません。つまりこの時点での実際のドナー登録者数は37万人となります。現在は38万人程度と予測され、本当のドナー登録者数は50万人とは言えない状況なのです。

また、毎年ドナー登録者は2万人以上がドナー登録取消になっています。これは55歳の年齢超過などが理由です。保留ドナーも一定のルールを基にしてドナー登録から取消にすべきと考えます。現在のドナー登録者数が水増しの状態にあり、言わば統計数字が間違っているようなものですから…。

患者さんのより迅速なコーディネートのためにも、この機会にきちんとした対応が必要と思います。

ドナー登録方法の抜本的改善

これからの若年層ドナー登録推進を図るためには、現在の登録受付方法・システムでは限界となってきたことから、抜本的な改善が必要です。次号に特集を掲載します。

「再生医療公開シンポ」に参加して

2月5日(火)、再生医療公開シンポに参加しました。以下、講演の概要を紹介させていただきます。

はじめに再生医療に使われる幹細胞には、ES細胞、iPS細胞、体性幹細胞があり、日本ではiPS細胞の研究が盛んの様でした。

我々に関係深い講演では、東大医科研の長村登紀子先生から「へその緒」をソースとした重症GVHDに対する治験の報告がありました。へその緒には、低抗原性の特徴があり、その点有用性が高い様でした。またへその緒は、免疫療法、再生医療に用いる新しい医療の原料として期待されているため、そのバンク構想が紹介されました。

山中伸弥先生からは、ドナー登録会で説明している「iPS細胞ストック計画」の進捗状況が報告されました。今

までに20人程の方から提供頂いた。現在3種のストックが出来て、日本人の32%程が網羅されるようになり、出荷も始まっている。間もなく、もう1種のストックが出来ると約37%となるが、大半の日本人を網羅するには150種、世界では1,000種程が必要となりとても大変。

将来はゲノム編集iPS細胞ストックも視野に入れたい。これだと10種程で世界の大半が網羅される。また患者さん自身からのiPS細胞を100万円位で作成する研究も進めたいなどが報告されました。

また、iPS細胞を使った創薬も進んでおり、FOP(筋肉が骨に変わる病)の患者さんからiPS細胞を作り、効く薬を探した結果、既存薬から見つかり、20人ほどが治験に入った。

さらに山中先生から、世界的にはiPS細胞の研究は日本が先行していること。米国はES細胞の研究が多く、体性幹細胞については、米国、韓国などが整形分野で研究していること。世界中が日本のiPS細胞研究を注視しており、成功していけば、皆iPS細胞に移行するかもしれないと述べられました。企業者からは最近やりやすい環境になってきた。これからは企業が参加していく時期ではないか、との感想を述べられました。

報告集などで、少子高齢化に伴う血液不足の問題に対応して、iPS細胞から作った血小板の研究報告もありました。拒絶の問題にも有利なようでした。

以上概要を記しましたが、研究者の多くから、ここに来るまでに20年位かかったことを聞き、またこれからが、実用化に向けての本番であるとの決意も聞かれました。

(千葉の会 溝口理文)

全国各地で「ブロックセミナー」開催 (その2)

東海北陸 3月2日



金沢市で、いしかわ骨髄バンク推進・はとの会のご協力をいただいて、東海北陸地区ブロックセミナーを開催しました。このセミナーには、石川県、岐阜県、愛知県、三重県、福井県のボランティアが19名参加し、さらに日本赤十字社、日本骨髄バンク、石川県赤十字血液センターのほか、行政として岐阜県、三重県、石川県に参加していただき総勢30名で開催することができました。

始めの基調講話「輸血の進歩と骨髄移植の歴史」では、輸血が始まって119年、骨髄移植は49年になることと、成分献血は骨髄移植がきっかけで始まったなど、興味深い話がいっぱいでした。

日本赤十字社と日本骨髄バンクからは、骨髄バンクとさい帯血バンクの現状や課題についてのお話をいただき、参加した行政からは各県の取り組みが詳しく説明され、特に岐阜県からは、ドナー助成制度の報告のほか、「小児がん患者ワクチン接種に対する支援」「若年がん患者の生殖機能温存治療に対する支援」など患者さんたちの将来を見据えた支援制度の報告をいただきました。

患者さんの体験談では、治療の大変さや、ドナーさんへの想いなどを知るとともに、意見交換では、日赤との関

わり方や献血ルームでのドナー登録会のやり方など、様々な意見が出て、有意義なセミナーを開催することが出来ました。セミナー終了後には恒例の大懇親会が開催され、金沢の夜を堪能しました。(担当理事 田中重勝)

北海道 3月2日

日本骨髄バンクの説明員研修会に合わせて「かでる27」(札幌市中央区)で開催され、全道各地(札幌、苫小牧、北見、釧路)からボランティアが20名参加しました。道庁と新聞記者など3名の参加もありました。セミナーの講演予定だったドクターが手術を受けることになり、急遽、法律改正をテーマとしての開催となりました。加藤弦さんが分かりやすく説明してくれました。

最初に「法律制定の意義」について、東京の会通信に掲載された野村正満さんの記事で説明があり、次いで、国(厚生労働省)の委員会資料で、プライベートさい帯血バンクの規制化(法改正)についての概要説明がありました。プライベートさい帯血バンクの経営破綻によってはじまった不法なさい帯血移植の実態が、初めて分かりました。この改正は、問題が起きたことに慌てて取り繕うとしているだけで、根本的なことは何も触れてはいないのだなあ、と感じました。

まとめとして全国協議会の提言が説明されました。私は骨髄バンク(財団)と日本赤十字社の役割分担など、根本的な意味の改正案は全国協議会にあると思えました。堅苦しい内容でしたが、実際は、後半は懇親会に席を移し

楽しみながらのセミナーでした。

(北海道協会・札幌支部 K子)

中四国 3月16日



中四国ブロックセミナーは岡山市において、日本骨髄バンクの説明員研修会の修了後、研修会と同じ会場(ピュアリティまきび・岡山市)の1階下のフロアで開催しました。セミナーには加盟、非加盟団体合わせて5団体、22人が参加し、最初に、田中理事長より全国協議会の活動状況と今後の展望について説明があり、それを受ける形で参加者から多くの質問と要望が寄せられました。

次に、各地の活動報告、情報交換会が行われましたが、毎年、話題に上がるのは岡山県のボランティア団体と日赤血液センターの一体となった献血、ドナー登録会の活動です。現在ではLINEのグループを利用して、情報交換を小まめにされているとのこと。他県の方々からは称賛の声が上がりました。

最後に次期、中四国ブロック担当理事に推薦されている、徳島県の会の山口明大さんから自己紹介と決意表明があり、1時間30分の時間があっという間に過ぎました。

(担当理事 田中雄一郎)

「世界遺産姫路城マラソン2019」

2月24日(日) 姫路城マラソン2019が晴天の中開催されました。

姫路城マラソンは「平成の修理」を終えた2015年より始まり、今年で5回目となります。今年は1万2千名ほどの方が日本国内より参加され、東日本大震災以降、市が職員派遣などの支援を続ける宮城県石巻市の小学生25名も招待され、約2キロのコースを走

り、また高橋尚子さん・間寛平さんも来られ大会は大変盛り上がりしました。

今年も、小学生を含む多くのランナーの方が骨髄バンクのたすきをして走ってくださり、沿道では、ボランティアが幟をもってランナーに声をかけ応援しました。ランナーの中には、「たすきをする以上、骨髄バンクのドナー登録もしなくては」と言っておられる方もおられました。とても嬉しい言葉でした。

このようにして、少しずつですが骨



髄バンクがつながっていくのではないかと思います。来年もこのたすきをして完走される人が、今年より一人でも多く増えることを願っています。

(姫路推進センター 濱田恵子)

5月18日(土) 全国大会(山形県天童市)のご案内

「2019 全国骨髄バンクボランティアの集い in 山形」の開催まで、1ヶ月余りとなってきました。今回は開催地での山形、そして天童市の魅力を皆様にお伝えいたします。

花笠音頭の冒頭の一節「花の山形、もみじの天童」と評される山形県天童市は、将棋駒生産量日本一を誇り将棋のまち天童として有名であります。会場の天童ホテルは名人戦が行われることもある格式ある温泉宿です。そして

その天童温泉は弱アルカリ性で美肌効果に優れ美人の湯と称されます。

お勧めグルメは、会場宿から歩いてすぐの大きな水車が目印の「手打水車生そば」というお店の鳥中華と板そば。山形はそば屋でラーメンを出すお店が多く、この鳥中華は温かいそばつゆに中華麺が入った和と中の融合。まさに寛容な県民性を表す逸品となっております。板そばは田舎蕎麦らしい太麺の歯ごたえのある麺。是非ご賞味いただければと思います。

山形といたら日本酒。こちらに關しては皆様のご期待に答える様、当体会長の小野寺が自ら酒蔵を回り厳選した地酒を懇親会にて振舞わせていただきますので乞うご期待。

地理的に決して交通の便が良い所ではなく、皆様にはご難儀をおかけしますが、当日多くの皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

骨髄バンクを支援するやまがたの会
運営委員 山科 慎治

第10回役員選考委員会の第2回告示

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
役員候補者(推薦・立候補)選考一覧
任期(2019年7月1日~2021年6月30日)

2019年3月18日
全国骨髄バンク推進連絡協議会
役員選考委員会委員長 野村 正満

第10回(2019年度及び2020年度)の役員選考を行うため、本年1月24日付で第1回告示により役員推薦、立候補者を募ったところ、2月1日から3月3日の届出締切日までに右記のとおり推薦、立候補がありました。役員選考委員会規程の定める第2回役員選考委員会を3月4日に開催し、審議した結果について、以下のとおり告示します。(概要掲載)

- 会長、副会長、理事、監事の選考結果について
 - ・会長には、1名の推薦があり候補者に選考された。
 - ・副会長には、定員3名に対し4名の推薦があったが、菅氏本人より辞退表明があり、菅氏を除く3名が候補者として選考された。
 - ・理事については、地区推薦理事の定数12名に対し11名の推薦があり、全員が候補者として選考された。東北地区に推薦者がなかったため、地区内の協議で菅氏を理事としたい旨の報告があり、役員選考委員会として本人の同意を得て東北地区理事の候補者に選考した。(副会長の被推薦人から削除)
 - ・公募理事については、定員3名に対し1名の立候補があり、理事候補者として選考された。

●通常総会での役員選任

2019年5月19日

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

藤倉 光枝=埼玉

役職	氏名	推薦団体(数)。立候補など	地区・全国区、立候補(所蔵団体)	区分
会長	仲田 順和	あいち、千葉、岐阜、神奈川、東京(5団体)	醍醐寺座主・ロータリークラブ	重任
副会長	渋谷 俊徳	岐阜、神奈川、東京(3団体)	ライオンズクラブ	重任
副会長	東井 朝仁	千葉、岐阜、東京(3団体)	元厚生労働省	重任
副会長	野村 正満	沖縄、あいち、千葉、神奈川、東京(5団体)	(東京の会)	重任
理事	田中 重勝	あいち、岐阜(2団体)	(岐阜の会) 地区推薦	重任
理事	村上 忠雄	神奈川(1団体)	(神奈川の会) 全国区推薦	重任
理事	若木 換	東京(1団体)	(東京の会) 地区推薦	重任
理事	梅田 正造	立候補	(千葉の会) 立候補	重任
理事	加藤 弦	北海道(1団体)	(北海道の会) 地区区推薦	再任
理事	菅 早苗	役員選考委員会の選考	(秋田の会) 東北地区	再任
理事	北折 健次郎	あいち、岐阜(2団体)	(愛知の会) 全国区推薦	重任
理事	笠原 千夏子	千葉(1団体)	(長野の会) 地区推薦	新任
理事	山村 詔一郎	なら(1団体)	(ならの会) 全国区推薦	重任
理事	浅野 祐子	なら(1団体)	(ならの会) 地区推薦	重任
理事	山口 明大	とくしま(1団体)	(とくしまの会) 地区推薦	新任
理事	辻 枝雄	沖縄(1団体)	(りポンの会) 地区推薦	重任
監事	陽田 秀夫	沖縄、あいち、千葉、岐阜、神奈川、東京(6団体)	(福島の会)	重任
監事	一樂 邦彦	あいち、千葉、岐阜、神奈川、東京(5団体)	弁護士	重任

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日~3月20日(敬称略)

●一般	日本造血細胞移植学会募金箱	現金 551,849円
株式会社チエノワ情報システムズ	現金 8,661円	株式会社 マルト商事
現金 15,424円	●白血病患者支援基金	現金 340,413円
東京新都心ライオンズクラブ	船崎 さとみ 現金 10,000円	ゴールドジム成田千葉
現金 100,000円	●佐藤さち子患者支援基金	現金 17,406円
骨髄バンクチャリティ麻雀大会 in	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	現金 5,000円
大阪実行委員会 現金 164,112円	現金 5,456円	設計工房 夢家 現金 3,748円
瑞浪桔梗ライオンズクラブ	恵泉女学園中学・高等学校	イオン九州株式会社
現金 200,000円	現金 40,672円	現金 7,292円
藤波 敬子 現金 10,000円	らいらっくの会 現金 20,000円	ビッグドラゴン 現金 3,748円
松浦 大助 現金 11,335円	万々 宏 現金 100,000円	鎌倉屋 現金 4,520円
岩崎 大 現金 70,000円	ナカシマヨシト 現金 3,000円	足立眼科医院 現金 5,032円
山村 詔一郎 現金 6,319円	竹田 幸子 現金 10,000円	にいつ内科クリニック
塩谷 泰人 現金 1,000円	●こうのとりにマリン基金	現金 5,250円
塩代 真也 現金 5,000円	匿名 現金 5,000円	●つながる募金
ハルキ コウヘイ 現金 1,000円	匿名 現金 5,000円	現金 5,313円
匿名 現金 5,000円	株式会社クスリのアオキ	

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会